

RSN

ライトユーザーからの電話相談が増加

パチンコ依存問題の解決を支援するリカバリーサポート・ネットワーク(RSN)は、2009年12月の電話相談の内容をまとめた。

それによると、電話相談の件数は71件と3カ月連続で減少したが、都道府県別にみると本人からの相談が増加しているエリアもあった。電話をかけた人の割合は、本人が約70%、家族・友人が約30%。本人の男女比は男性が約75%、女性が約25%となった。

低玉貸し営業の普及により、「低価格なので長時間聞いてしまう」「500円しか持っていないなくてもパチンコ店に行ってしまう」など、相談内容も変化してきている。また、問題を「抱えている」人よりも、問題を「感じている」人といったライトユーザーからの相談が多くなった。

相談内容としては、「困っていないが、不安を

感じる」「借金は無いが、今後毎日のように行くこの先抱えてしまいそう」「今は休日だったが、たもの。」